

— オティックスグループ —

環境報告書



ENVIRONMENTAL REPORT 2024

OTICS

ごあいさつ

ここ数年で自動車業界を取り巻く環境は大きく激変しており、世界的に取り組む地球温暖化対策、カーボンニュートラルへの対応は不変かつ急務なテーマであり、現代社会を生きる私たちの責任です。また国連加盟国が2030年に向けて世界に発信しているSDGs（持続可能な開発目標）も持続可能な社会を目指してしっかりと取り組んでいく必要があります。

当社は以前より継続的に「環境取り組みプラン」を推進してまいりました。2023年度は、第8次の「環境取り組みプラン」更新年であり、環境保全の4本柱である「地球温暖化対策」、「循環型経済社会の構築」、「自然共生社会の構築」、「環境マネジメントの推進」に挑戦中です。

カーボンニュートラル達成に向けた省エネ取り組みの推進、太陽光パネルの設置など取り組みを加速させていきます。また継続して産業廃棄物の削減や外部要求の高まる化学物質管理、水資源管理、サプライチェーンを含めた環境マネジメントなど取り組むべき項目は多いですが、積極的にチャレンジしグループ全体で着実に一步一步取り組みを進めていきたいと思っております。

2024年8月

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



代表取締役社長
小田井勇樹

社是・経営理念

I 社是

『和と努力』 Harmony & Effort

顧客	顧客との和／品質への努力
技術	技術と人間の和／技術革新への努力
社会貢献	地域社会との和／企業文化創造への努力
ヤングスピリット	伝統と革新の和／各自の創意工夫の努力

II 経営理念

『和と努力』を基とし、常に創意工夫をもって、
品質の向上、コストの低減に努め、
会社の繁栄と社員の幸福を図り、社会に貢献する。

環境方針

オティックスグループ(以下当社)は、かけがえのない自然の大切さを認識し、地球環境の改善が事業活動の最重要課題の一つであると位置づけています。

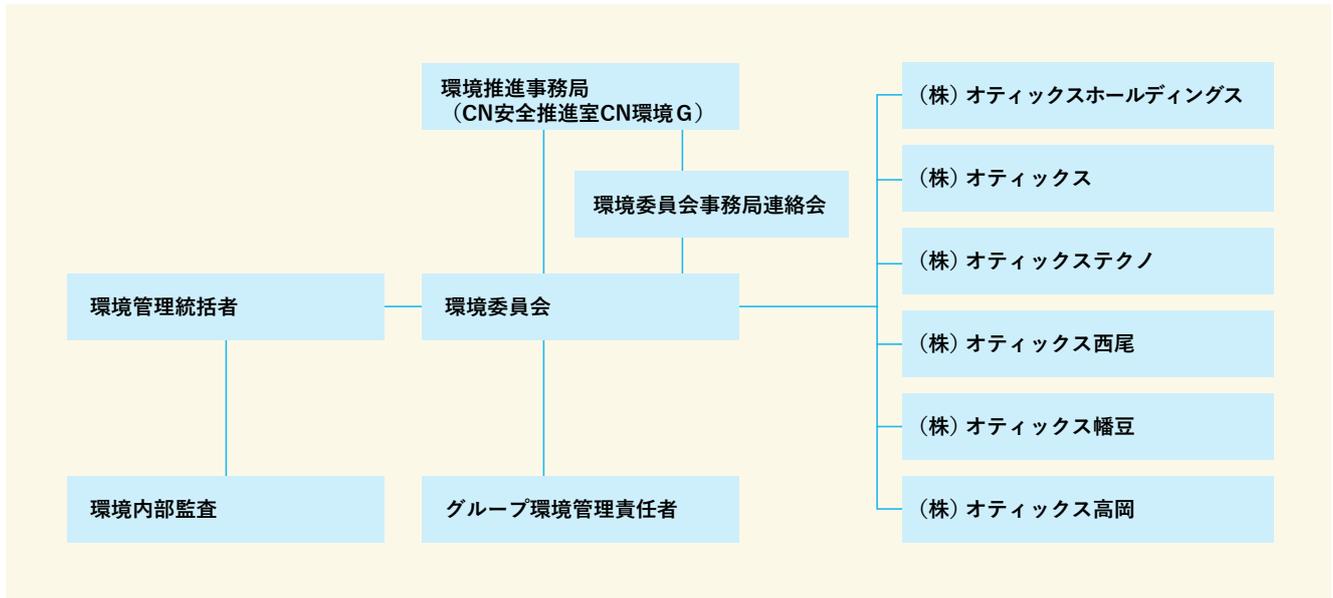
当社はモビリティ関連部品の専門メーカーとして精密機能部品を生産していますが、その生産活動、製品が環境に深く関わっていることを踏まえ、地域環境のみならず地球環境保全のために環境負荷低減を積極的に展開します。

1. 当社に適用される法律・協定・ガイドライン等の要求事項を遵守し、並びに生物多様性および生態系の保護を含む活動で地域との環境調和を図ります。
2. 当社は環境負荷を低減するため環境目的および目標を設定し、環境マネジメントシステムを構築することで、全従業員一丸となって継続的改善および汚染の予防を推進します。
3. 当社で働く全従業員、または当社のために働く全ての人に本方針を周知させるため、教育・啓蒙活動を行います。

改定日：2023年2月1日
株式会社オティックス
代表取締役社長 小田井勇樹

環境マネジメントシステム体制

当社は環境活動を組織的に推進するため、環境管理統括者（社長）のもとグループ全体で環境活動および社会貢献活動を展開しています。



環境委員会

3ヶ月に1回、環境管理統括者、グループ環境管理責任者及び各社環境管理責任者、環境委員会事務局連絡会メンバーが環境取り組みプランの推進及び環境マネジメントシステムの運用状況の確認を行います。

環境委員会事務局連絡会

3ヶ月に1回、環境推進事務局、各社担当課メンバーで環境委員会での協議内容の進捗確認など情報共有を行います。コンプライアンス管理として、各社で環境管理責任者に任命された法定管理者、法定責任者を置き、法で定める役割、責任を果たすための権限を与えています。

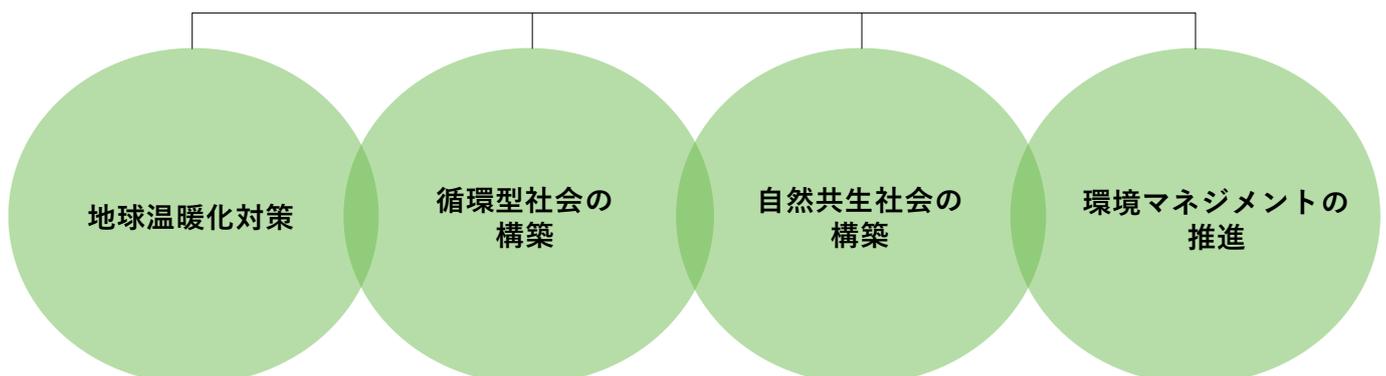


環境活動

21世紀社会の環境保全に貢献するため、環境との調和のある成長を目指し、全員参加でモビリティ関連部品メーカーとして気候変動、資源枯渇、生物多様性などの環境問題に取り組み、環境マネジメントを推進する。

オティックスの基本的な取り組み

環境取り組みの4本柱



第8次 環境取り組みプラン(2023-2027年)



【方針】 21世紀社会の環境保全に貢献するため、環境との調和のある成長を目指し、全員参加でモビリティ関連部品メーカーとして気候変動、資源枯渇、生物多様性などの環境問題に取り組み、環境マネジメントを推進する。

環境に関する取り組み内容の実施項目を見直し環境取り組みプランとして定め5ヵ年目標値及び年度計画を策定し、全員参加で地球温暖化対策、循環型経済社会の構築、環境負荷物質管理、環境意識強化活動に取り組んでいます。

課題	実施項目	監視目標項目(数値)	5ヵ年目標値	2023年取り組み	2023年度結果
地球温暖化対策 (CO2排出量低減)	CN推進計画立案とエネルギー改革(太陽光発電の導入)	CO2原単位低減	▲7.5% (▲1.5%/年)	太陽光発電CO2原単位▲1.4%	
	生産性向上活動により、省エネの推進	CO2原単位低減	▲7.5% (▲1.5%/年) 2022年度比	前年比▲12.6%	
	改善シートのCO2改善効果積み上げ	改善率	▲9% (▲3%/年)	目標値以上の改善効果積み上げを達成	
	必要エネルギー比較による省エネ製品&工程の開発(新規製品工法改革)	各製品のCO2削減アイテムの創出	各部門2件/年	合計:6件/年	
循環型経済社会の構築 (産廃低減) (水資源の有効活用)	産廃の有償化、減容化等による排出量削減	産廃原単位低減率	▲5% (▲1%/年)	前年比▲16.7%	
	ゼロエミッションの達成	ゼロエミ率	99.5%以上維持	99.8%以上達成	
	水使用量の把握、管理	水使用量の適正使用・現状把握	使用量の把握(増減率)	市水:▲3.6% 工業用水:+9.3%	
	水質基準値の管理	水質基準値違反	0件	0件	
自然共生社会の構築 (化学物質) (生物多様性)	客先調査納期管理	納期遅れ件数	対応率100%	対応率100%	
	製品含有化学物質管理体制の向上	「製品含有化学物質管理ガイドライン」評価点向上	年度ごと目標設定	1点向上	
	油剤SOC管理(新油管理)	対応率100%	対応率100%	対応率100%	
	清掃奉仕活動等の実施	実施回数	6回/年 (2回/年)	6月と10月 清掃活動を実施	
環境マネジメントの推進	環境マネジメントシステムの維持管理	外部審査不適合件数	0件	0件	
	環境関連法令の順守	違反件数	0件	0件	
	環境異常の監視 S:社外影響あり A:社外影響の可能性あり B:社外影響はなし C:社内影響小	環境異常件数	環境異常件数0件 (社外影響あり S・Aをカウント)	0件	
	外部からの苦情監視	苦情件数	0件/年	0件	
	仕入先の環境取組体制の向上	環境取り組み体制の向上・支援の継続	仕入先訪問件数(3社)	3社(規格取得・CN支援)	
	仕入先との環境コミュニケーション	継続的なコミュニケーションの実施	実務担当者会での仕入先啓発	1回/月	
	環境教育・啓発の推進	環境一般教育実施	1回/年	10月実施	
	環境意見交換会の実施	環境意見交換会実施	1回/年	12月実施	
環境取り組みの情報開示	継続的な情報開示	1回/年	8月開示		

目標達成

目標未達成ながら進展

未達成

製品開発での環境配慮

製品の粗材、製造、使用を考えた開発に取り組んでいます。

粗材

環境になるべく負担のかからない、人や環境に優しい粗材の使用を目指します。関連する部署と協力し、使用する粗材に汚染物質が含まれていないか確認しています。

製造

使用するエネルギーを減らし廃棄物をなるべく出さない設計を目指します。会社全体で製品の設計内容を確認しています。

使用

部品を軽くしたり、摩擦力を小さくしたり、自動車が少ないガンリンでたくさん走れるような部品の設計を目指します。

生産工程設計の環境配慮

製品の品質、生産量、コストを満足させる生産工程の設計を行っています。また、使用するエネルギーを少なくするなど、環境に配慮した設備を導入しています。

1. エネルギー使用量削減への取り組み

- ①生産設備をスリム化（小型化）する。
- ②エネルギー消費の少ない機器を導入する。
- ③複数の工程を同時に加工する「複合設備」を導入し、設備の台数を減らす。
- ④電気使用量の大きいエアブローを減らす。

2. 環境に配慮した取り組み

- ①新しい生産設備を導入する際に使われなくなった設備は改造して利用する。
- ②近隣の住民、従業員の健康や快適性に配慮した騒音の少ない設備を導入する。

国際規格の認証取得

認証・登録	認証・登録日	認証・登録番号
ISO9001	1998年3月登録	JQA-2191
ISO14001	2001年5月登録	JQA-EM4812
IATF16949	2006年6月登録	JQA-AU0126

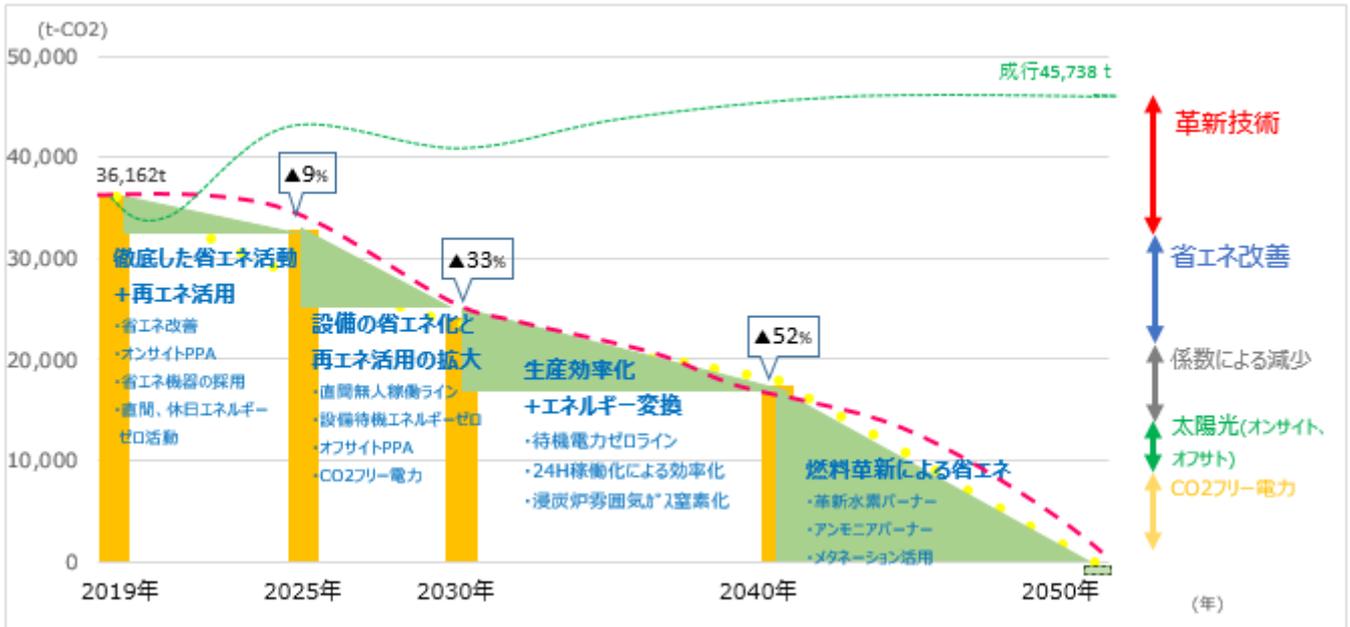
2023年度 事業活動と環境負荷

インプット		アウトプット	
電力	60,910MWH	地球温暖化ガス (CO2) ※法改正による係数見直	37,105 t
LPG	1,561 t		
LNGガス (12A)	1,147千m3		
都市ガス	1,658千m3		
重油	186kl		
水	106,739 t	排水	37,139 t
		産業廃棄物	347.6 t

地球温暖化対策

カーボンニュートラル達成に向けて

当社は2050年カーボンニュートラル達成に向けたロードマップを策定しました。革新技術や省エネによる改善効果、換算係数による減少、太陽光パネルの設置、CO2フリー電力など様々な施策を実施することで2050年カーボンニュートラル達成を目指します。



NEW 太陽光パネルの導入

当社はカーボンニュートラル達成に向け2023年度は幡豆工場の屋根に太陽光パネルを設置しました。

稼働は2024年2月17日から、容量は1,295KW(約1,900枚)のメガソーラー発電施設となります。

幡豆工場の電力使用量の約10%を賄い、CO2排出量を380 t - CO2削減することができます。今後も順次太陽光パネルなど再生可能エネルギーの導入を検討していきます。



オティックス幡豆 幡豆工場 太陽光パネル

2023年2月に稼働した蒲郡工場の太陽光発電施設の年間発電量は1,185,888kWh で年間CO2低減量は460 t - CO2となりオティックスG全体排出量の▲1.3%の低減が出来ました。



オティックス幡豆 蒲郡工場 太陽光パネル



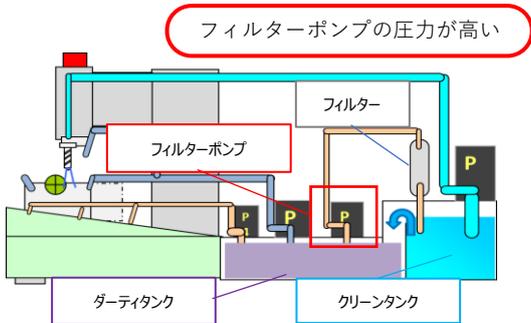
オティックス幡豆 蒲郡工場 太陽光発電電力量グラフ

地球温暖化対策

NEW CO2削減事例

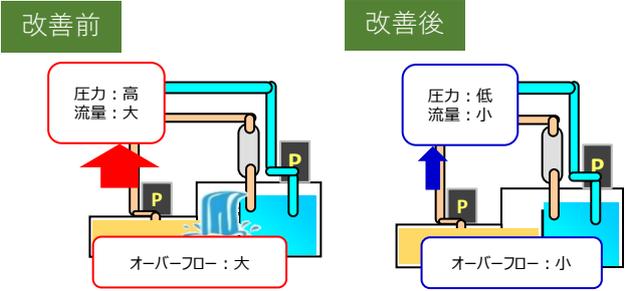
当社は各工場が生産工程を改善することでCO₂排出量の削減に取り組んでいます。オティックス幡豆ではマシニング設備の省エネ改善に取り組みました。生産設備電力の消費割合や生産設備の機種ごと電力割合を特定しマシニング機（171台）のフィルターポンプに着目し、圧力を下げ消費電力を低減し製品の品質に問題無い事を確認し電気使用量の低減を図りました。今後も各工場では省エネ改善に取り組みCO₂削減に取り組んでいきます。

マシニング工程概要

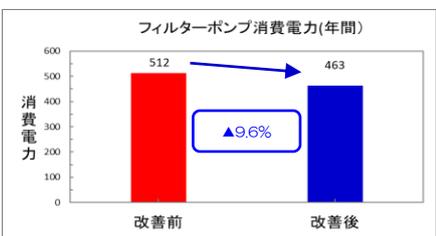


問題点

加工で使用するクーラント量より多くのクーラントをダーティタンクへ送りオーバーフローさせている。



効果確認



環境改善事例発表会

当社は毎年「環境改善事例発表会」を実施し、各社で実施した環境改善の効果及び検証と社内、他設備への展開を行っています。環境改善事例発表会では付帯設備の省エネ改善、蒸気配管系統見直しによるガス使用量の低減などの取り組みが紹介されました。

引き続き全社で省エネ活動・廃棄物の削減・水使用量低減に取り組んでいきます。

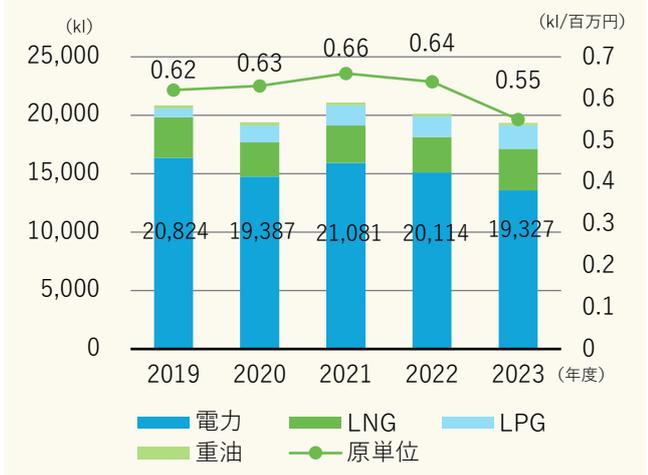


環境改善事例発表会

CO₂ 排出量削減

当社は（一般社団法人）日本自動車部品工業会の「環境自主行動計画」の数値目標に基づいてCO₂排出量の削減に取り組んできました。2023年度のエネルギー使用量は各社省エネ改善により減少しました。CO₂排出量も太陽光発電導入・省エネ改善により減少しています。

エネルギー使用量と原単位の推移



エネルギー使用量原単位（エネルギー使用量 (kl) / 加工高 (百万円)）

CO₂排出量と原単位の推移



CO₂排出量原単位（CO₂排出量 (t-CO₂) / 加工高 (百万円)）
※電力会社の排出係数（調整後排出係数）に基づき計算を行っています。

循環型経済社会の構築

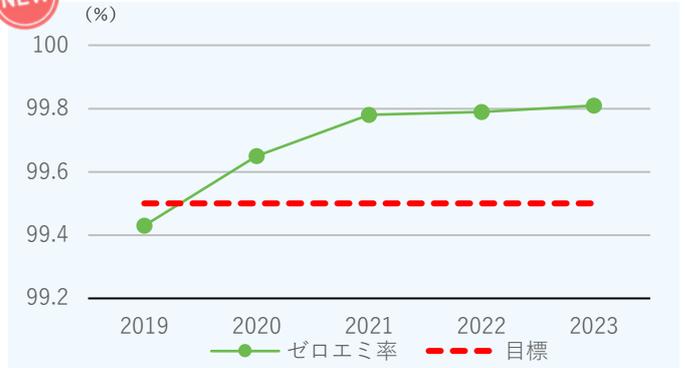
産業廃棄物排出量の削減

当社は（一般社団法人）日本自動車部品工業会の「環境自主計画」目標値に基づいて産業廃棄物の削減に取り組んできました。各工場では産業廃棄物の処理水減容化等に取り組むことで産業廃棄物を削減しました。またゼロエミ率目標に対しては埋め立て廃棄物削減に取り組むことでゼロエミ率99.8%（目標99.5%）を達成しました。

産業廃棄物排出量と原単位の推移



NEW ゼロエミ率の推移



産業廃棄物排出量原単位（産業廃棄物（t）/加工高（百万円））

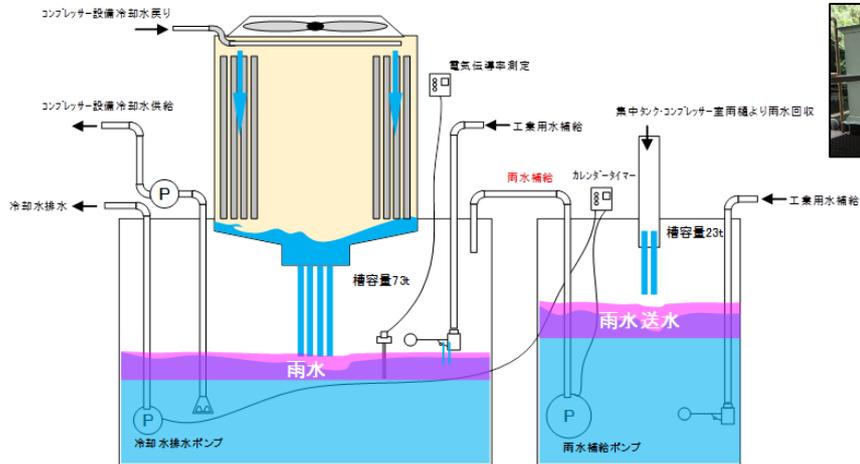
ゼロエミ率 $(1 - (\text{埋立廃棄物 (t)} / \text{総廃棄物 (t)}))$

NEW 水使用量削減事例

当社は水使用量の削減に取り組んでいます。オティックス高岡では雨水を建屋屋根から回収し、コンプレッサ冷却水の補給水として有効利用し、工業用水の使用量を削減しています。

【システム概要】

・冷却水の濃縮を防ぐために排水ポンプと雨水補給ポンプをカレンダータイマーで制御し、電気伝導率を管理することで、冷却水槽内の夾雑物を抑制し、工業用水の使用量低減、清掃頻度の延長、コンプレッサ設備整備時間延長などの効果に繋がっています。

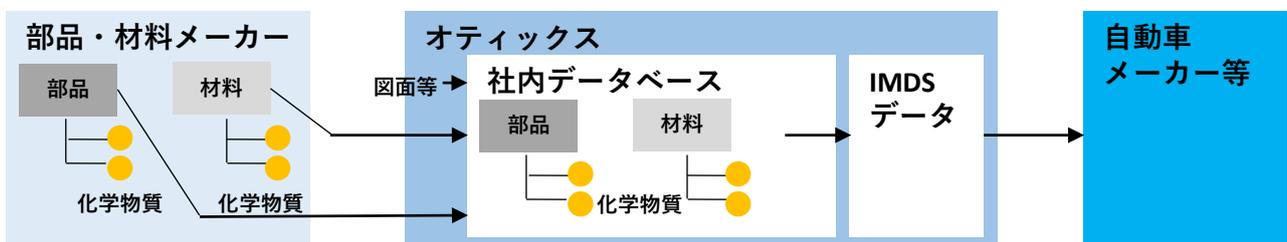


環境負荷物質管理

化学物質管理体制

当社は化学物質の規制強化を受け、取引先からの化学物質管理に対する要求にこたえるため化学物質管理委員会で課題を共有し、課題解決に取り組んでいます。

自動車部品の化学物質情報登録および顧客への報告を行っており、サプライチェーンで必要な情報を収集し、IMDS登録など管理体制を整えています。



環境意識強化活動

清掃奉仕活動

当社は清掃奉仕活動を環境ボランティア活動の一環で、地球環境保護・地域貢献を目的に、活動を通じて従業員の環境意識を高めるため実施しています。2023年度より対象者を拡大し、748名/年（2回合計）参加していただきました。



清掃奉仕活動の様子（高岡）



清掃奉仕活動の様子（西尾）

環境意見交換会

当社は自治体など地域の代表者にお越しいただき、会社概要、環境の取り組み内容を説明するなど地域との環境意見交換会を実施しています。地域の代表者からは、工場周辺への環境面での配慮などが要望としてあげられました。今後も地域環境に配慮し、情報交換などコミュニケーションを継続していきます。



環境意見交換会の様子



西浅井工場説明の様子

環境異常の監視

当社は緊急時の対応確認を定期的に行い、環境異常を監視しています。各会社で油の漏れや排水基準値の順守など地域への悪影響が起らないよう緊急事態訓練を実施しています。

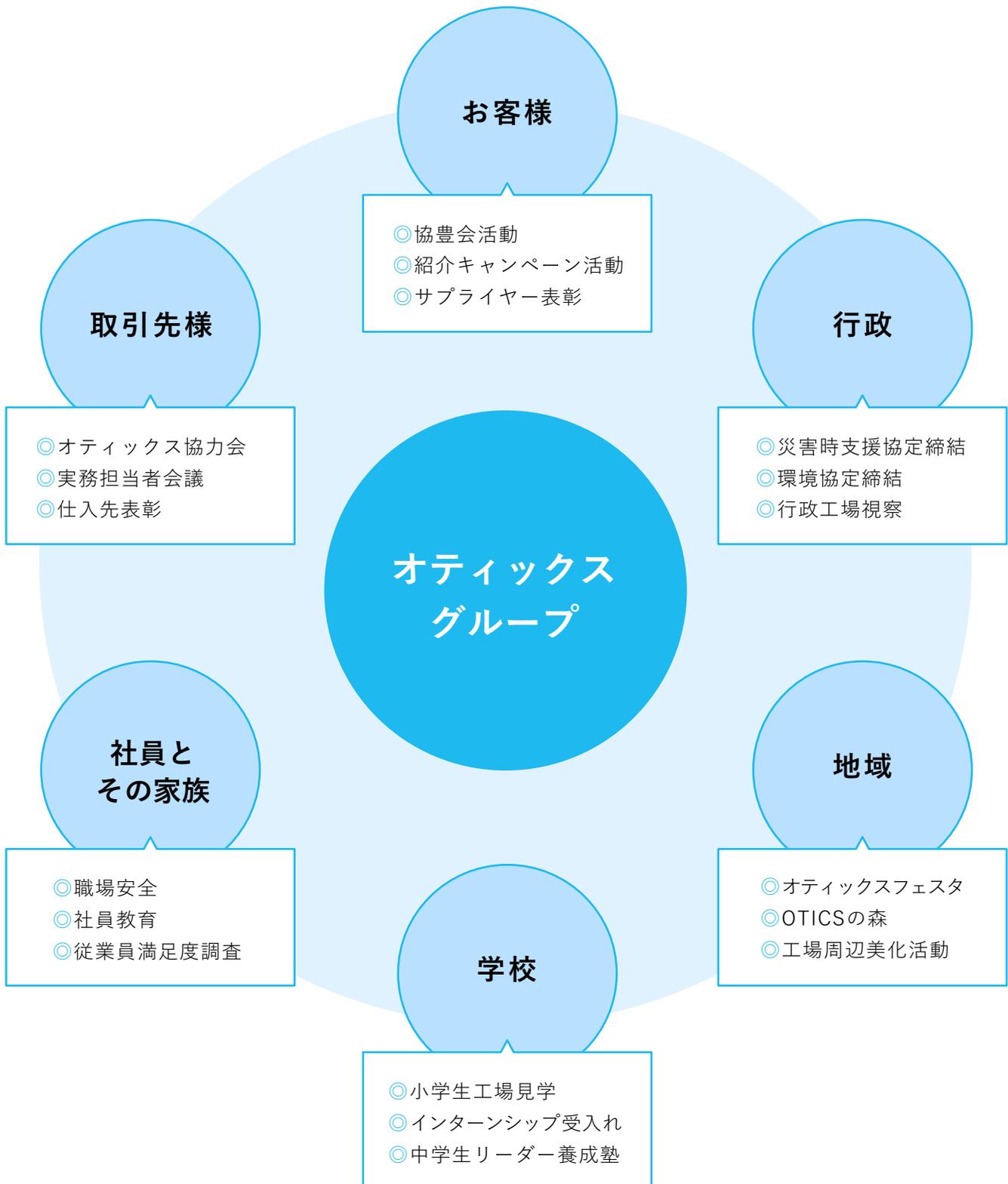


油漏洩時の対応訓練

環境ボランティア活動

当社は、西三河南部生態系ネットワーク協議会に所属しておりますが、2023年度はコロナ禍の影響を考慮し参加を見合わせました。（2024年度は参加予定）

オティックスグループのステークホルダー



地域との関わり

当社は従業員の環境意識向上のため社内外のイベントを通して環境活動の重要性を伝えています。

地元小学校の生徒による工場見学

当社は地元小学校へ地域貢献の取り組みとして工場見学を行っています。鶴城小学校児童が社会学習の一環で幡豆工場を訪れ、ものづくりを学びました。



幡豆工場見学の様子

交通安全立哨

当社は社員はもちろん、地域住民の方々への啓蒙活動として、会社前にて月1回交通安全立哨を実施して交通安全を呼び掛けています。



交通安全立哨の様子

オティックス募KEN活動

当社は地域貢献活動として、「オティックス募KEN活動」に取り組みました。主な取り組みとしては工場周辺や通勤路などのゴミ拾い活動、使わないテレカ・図書券などの募集、全員が例年以上にヘルスマを頑張る活動です。「オティックス募KEN活動」の従業員からの寄付で西尾市社会福祉協議会に介助式車いすを寄贈しました。



清掃活動の様子



西尾社会福祉協議会へ介助式車いす寄贈の様子

オティックスチャリティフェスタ

4年ぶりの開催となりましたが多くのお客様にオティックスチャリティフェスタを楽しんでいただくことができました。従業員とご家族、地域より多くの方々にご来場いただき全社から応援スタッフ、関係者の皆様から絶大なご協力により盛大に開催することができ技術本館内では、展示室などを活用したクイズラリー、環境コーナー、SDGsコーナー、OTICSの森コーナーを行いました。またSDGsコーナーではSDGsポスターを募集し多くの方々にご応募くださいました。オティックスがどんな会社なのか知っていただくきっかけとなり、お客様からご好評いただきました。



緊急時の地域との関わり

当社は緊急時を想定した訓練の他、地域の皆様とのつながりを意識した活動を推進しています。

緊急時の対応

当社は、毎年緊急事態訓練を実施しています。また災害時には地域の皆様へ技術本館北側グラウンドを一時避難所として提供することをお約束しています。



避難訓練の様子

オティックスの森（本物の森づくり）

当社は2018年の創業100周年より、新たな環境への取り組みとして「森づくり」に取り組んできました。「森づくり」単なる記念植樹ではなく、地域へ、地球への感謝と恩返し、そして将来を担う子供達への贈り物として「本物の森づくり」に取り組んでいます。

オティックスの森（本物の森づくり）



(本社技術本館)



(高岡工場)



(寺津工場)

年度	場所	参加人数	植樹本数
2015年	本社技術本館	1,150名	8,100本
2016年	高岡工場	550名	3,650本
2018年	寺津工場	530名	3,850本
2021年	西浅井工場	600名	10,700本



にしおSDGsパートナー制度

「にしおSDGsパートナー登録制度」は、市と企業・団体等が連携して西尾市におけるSDGsの普及促進に取り組むことで、持続可能な社会を目指す制度で、オティックスは2024年2月1日『ゴールドパートナー』の認証状が交付されました。

当社が取り組んでいる次のような取組みが、評価いただいた結果です。

- ① カーボンニュートラル達成を目指した自動車部品の開発
- ② 本物の森をつくる「OTICSの森づくり」、カーボンニュートラルやゼロエミッションの環境取組み
- ③ 「オティックス・チャリティ・フェスタ」、「オティックス募KEN活動」での社会福祉協議会への車いすなどの寄付や地域清掃活動、新しい体験型の工場見学会「OTICS ラボ」など地域貢献の取組み



ゴールドパートナー登録証

 国内拠点



株式会社オティックス
ホールディングス【事務本館】



株式会社オティックス
【技術本館】



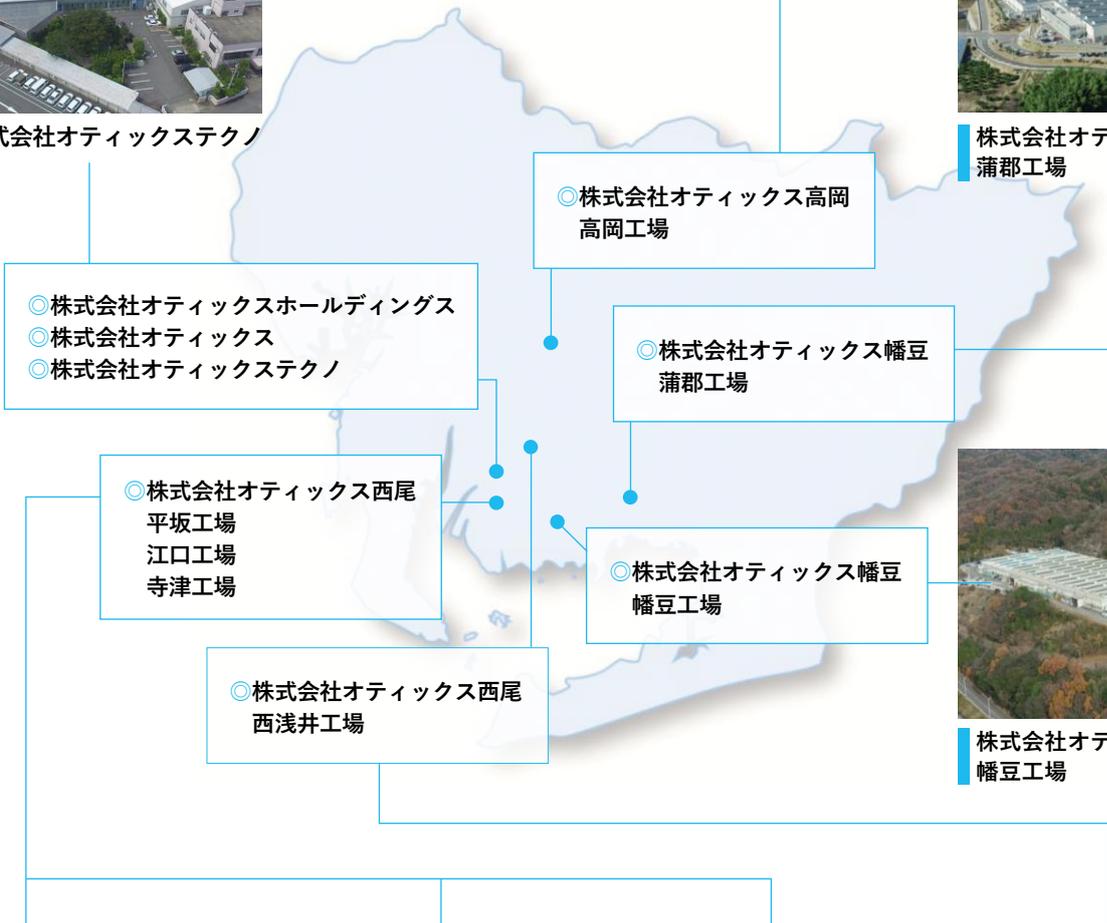
株式会社オティックス高岡
高岡工場



株式会社オティックステクノ



株式会社オティックス幡豆
蒲郡工場



株式会社オティックス幡豆
幡豆工場



株式会社オティックス西尾
平坂工場



株式会社オティックス西尾
江口工場



株式会社オティックス西尾
寺津工場



株式会社オティックス西尾
西浅井工場



「環境報告書」
発行に当たって

お客様からの信頼を得るためにオティックスグループの環境配慮の取り組みなどをまとめました。
本報告書ではオティックスグループの環境、地域貢献について報告いたします。

【報告期間】 本報告書はオティックスグループにおける2023年度（2023年2月1日～2024年1月31日）の活動実績をもとに作成

【対象範囲】 株式会社オティックスを含む国内会社

【発行日】 2024年8月

【参考とするガイドライン】 環境報告ガイドライン2018年度版

お問い合わせ先

株式会社オティックス

CN安全推進室CN環境G

〒444-0392愛知県西尾市中畑町二割19-2 TEL.0563-65-2317 <https://www.otics.co.jp/>